

# 年末年始の事故防止ガイド

—大掃除・暖房用品・食品による窒息—

ヒヤリ・ハットレポート No.6



東京都では、年末年始の生活等におけるヒヤリ・ハット体験や危害の経験を調べるためにインターネットアンケートを行いました。

この事故防止ガイドは、年末年始を含む冬の生活における事故防止のポイントをまとめたものです。

# 掃除中にも様々な危険が潜んでいます!

## 居間・その他の居室 (327人)

- 窓の外側を掃除していたら、手を伸ばしすぎて転落しそうになった。
- 照明器具のカバーを取り外し中にバランスを崩し、転落した。



### ★ポイント★

電球の交換やエアコンの掃除などの高所作業をする場合は、安定した椅子・踏み台を使いましょう。

高所で窓の外側を室内から拭く場合、身体を乗り出すと転落の危険があります。無理な体勢での窓拭きはやめましょう。

## 浴室・洗面所 (348人)

- 浴室の床に洗剤を噴射し、15分後に浴室に入ったら足が滑り、転倒した。
- 扉を閉め切ったまま掃除したためにカビ取り剤で苦しくなった。



### ★ポイント★

水・洗剤で床面が滑りやすいことから、転倒に気を付けましょう。

浴室でカビ取り剤などを使う場合には、十分な換気が必要です。



## 階段 (267人)

- 階段下のコンセントを利用し、掃除機をかけ、降りるときにコードに足を引っ掛けた。
- 掃除機を持ちながら、階段を掃除していてバランスを崩し、階段を踏み外した。

### ★ポイント★

階段の転落事故は、物を持ちながらで、足元がよく見えないとき多く起きています。

特に、掃除機を持ちながらの移動など両手がふさがる状況では、バランスを崩し、転落の危険性が高まります。普段より慎重な行動が必要です。



# 「慣れた家だから」安全と思っていませんか？

## 台所 (299人)

- 換気扇の掃除中に羽で指を切った。
- キャスター付きの椅子に乗り、換気扇を掃除中に転落した。

### ★ポイント★

包丁や換気扇などの鋭利なものによる切り傷等の事故が多く発生しています。手袋などで保護してから実施しましょう。

また、換気扇・食器棚・冷蔵庫などの高所を掃除する場合には、安定した椅子・踏み台を使用しましょう。



## ベランダ・庭・外回り (194人)

- 窓拭きをしているとき、脚立から転落した。
- エアコンの室外機に足をかけ、拭き掃除中にバランスを崩し、手と膝を打撲した。



## トイレ (51人)

- 塩素系の洗剤で掃除中に気分が悪くなった。
- ブラシを勢いよくかけすぎて、洗剤がはねて目に入った。

### ★ポイント★

トイレでは、洗浄剤などによる事例が多く見られます。洗浄剤の使用時には、安全上の注意書きを確認し、「他の容器に移し替えはしない」、「手袋や眼鏡等で皮膚を保護する」などの注意事項は必ず守りましょう。

また、薬剤の混合による中毒にも十分注意が必要です。



### ★ポイント★

窓拭きや枝切り・雨どいの掃除中に脚立から転落しそうになった事例が多く起きています。

脚立は、平地の安定した場所で使用し、天板に乗らない等使用上の注意事項を必ず確認しましょう。

## こんな事故に注意しましょう!

### <大丈夫だと思って使ったら…>

回転椅子に乗って家具を掃除していたら、椅子が回ってしまい、床に落ち右手首を骨折した。



### <踏み台がなく浴槽を上ったら…>

自宅浴室内で、浴槽の縁に乗り天井を掃除中、滑って転倒し腰と背中を打ちつけた。



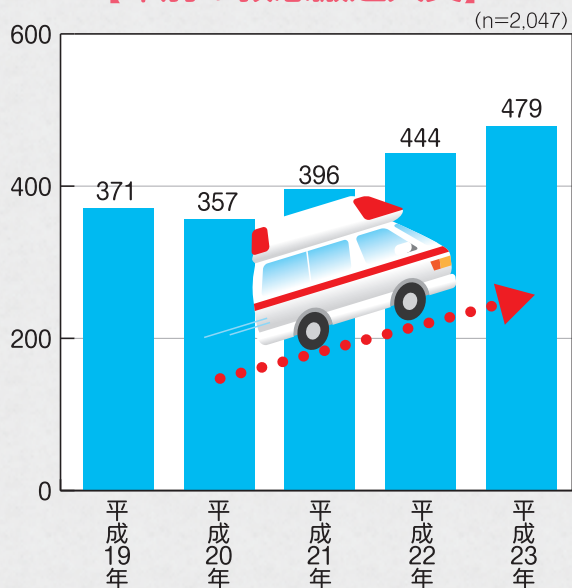
# 掃除中のケガによる救急搬送状況

## ～平成19年から平成23年までの救急搬送状況～

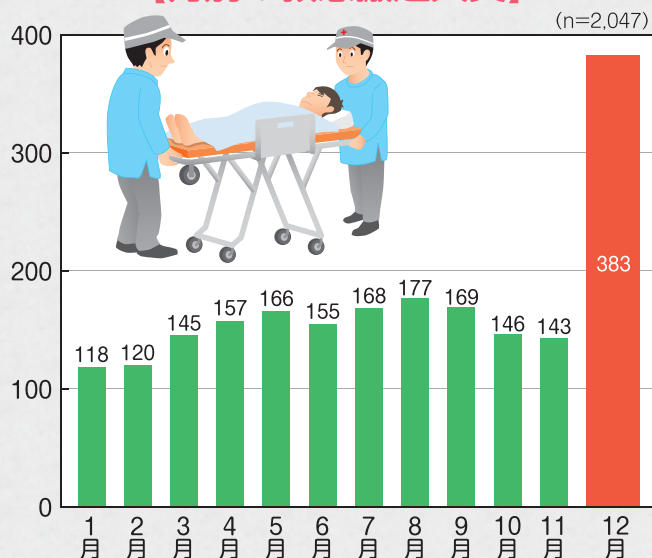
東京消防庁管内\*では、2,047人が掃除中のケガで搬送されています。  
搬送人員は年々増加傾向にあり、大掃除をする12月が特に多く、他の月と比べて2倍以上となっています。

また、搬送された人の60歳以上の合計は、1,248人と全体の6割以上を占めています。

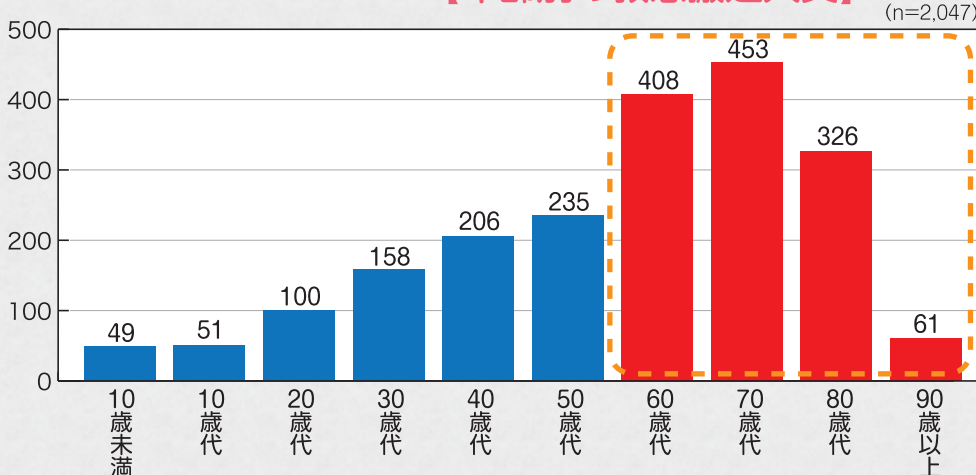
【年別の救急搬送人員】



【月別の救急搬送人員】



【年齢別の救急搬送人員】



60歳以上が6割!  
掃除中も  
油断は禁物だ

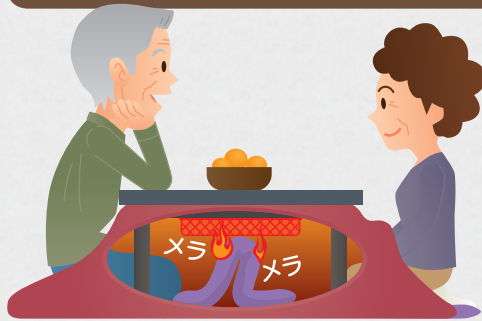


### ☆入院に至ったこんな事故も!

- キッチンカウンターの上に立ち掃除中、転落し、シンクの縁に脇腹を強打した。
- 自宅2階の窓ガラスを掃除中、地上に落ち胸部を打撲した。
- エアコンを椅子に上って掃除中、床に転落し、膝を強打した。

\*東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域(東久留米市は平成22年4月1日から東京消防庁管内)

# 暖房用品使用時の油断が大きな事故につながります!



**電気こたつ**  
電気こたつの中にあつた座布団が熱源に触れて、着火した。



**電気ストーブ**  
電気ストーブをつけたまま寝てしまい、布団に着火した。

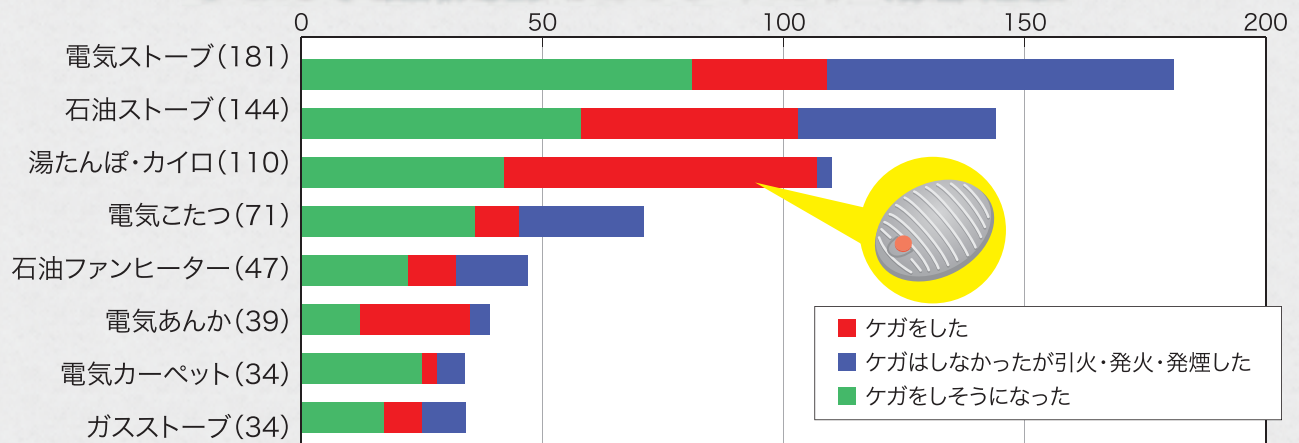


**石油ストーブ**  
石油ストーブの火を消さずに給油し、引火した。



**湯たんぽ**  
ペットボトルにお湯を入れて湯たんぽにしていたら、低温やけどをした。

## ●こんな暖房用品でヒヤリ・ハット・危害経験



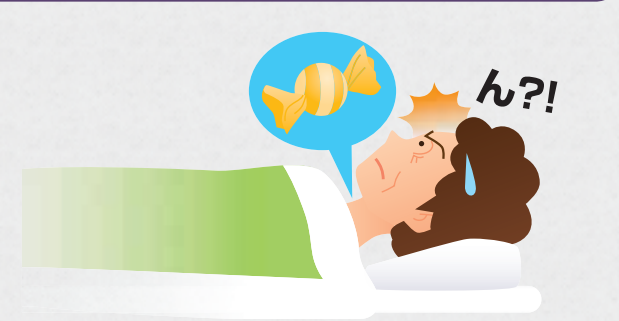
アンケート調査の結果、「電気ストーブ」や「石油ストーブ」などの熱源に接触し、やけどした事例や周囲の可燃物に着火した事例が多くなっています。次いで、「湯たんぽ・カイロ」などで低温やけどした事例が多くなっています。

- ヒヤリ・ハットとは** ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
- 危害とは** ケガをした事例や発火・発煙・引火など重大な事故につながるおそれのある事例

# 窒息事故は、こんな食品に注意



**もち**  
 きなこもちを一口で食べた父親が喉に詰まらせ、家族が背中をたたいて取り出した。



**あめ**  
 寝る前にあめをなめていて、そのまま布団で横になったときに喉に詰まらせた。

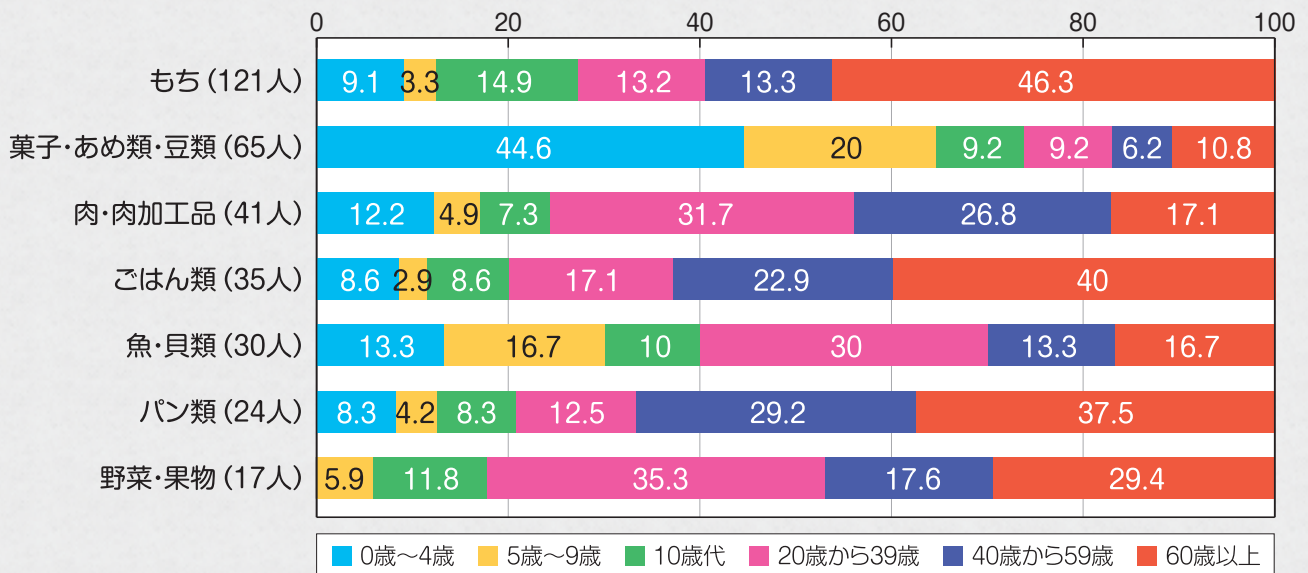


**みかん**  
 みかんを急いで口に入れたところ、喉に詰まらせた。

**ごはん**  
 たくさん口に放り込んで飲み込めず、呼吸ができなくパニックになった。



## ●食品による窒息のヒヤリ・ハット・危害経験(年齢別)



アンケートの結果、様々な食品での経験がありました。60歳以上で特に多い食品類は、「もち」・「ごはん類」でした。特に「もち」は、正月にかけて事故が多いことから十分に注意しましょう。また、その他の食品類でも窒息は死亡事故につながることから注意が必要です。

## ◆暖房用品使用時の注意点

- 1 燃えやすい物の近くでストーブ等を使用しない。  
布団や洗濯物など可燃物のそばでストーブを使用したり、エアゾール缶を置くことはやめましょう。
- 2 暖房器具の使用時には、必ず換気しましょう。  
石油ストーブ、ガスストーブなどの燃焼器具使用時には、一酸化炭素が急激に増加し、中毒になるおそれがあります。
- 3 湯たんぽ・カイロでの低温やけどに注意しましょう。  
湯たんぽを布団に入れたままで、低温やけどした事例が多く報告されています。なるべく就寝前に布団を温め、就寝時は布団から取り出しましょう。



## ◆食品による窒息事故を防ぐために

- 1 食品を小さく切るなど、食べやすい大きさにする。
- 2 急いで飲み込まず、ゆっくりとよく噛み砕いてから飲み込む。
- 3 食事の際は、お茶や水などを飲んで喉を湿らせる。
- 4 食事中は、歩き回らない、寝転ばない。
- 5 高齢者や介護を要する方は、粥などの流動食に近い食物でも窒息を起こすことがあるため食事の際は目を離さない。



### 東京都消費生活総合センター

東京都消費生活総合センターは、商品やサービスに関することで消費生活に関する相談を受け付け、問題解決のための助言やあっせん等を行っています。

**消費生活相談**  
**03-3235-1155**  
**高齢者被害110番**  
**03-3235-3366**

### 東京消防庁救急相談センター

急な病気やケガをした場合に、「今すぐ病院へ行くべきか?」、「救急車を呼ぶべきか?」など迷ったときは「東京消防庁救急相談センター」へ相談しましょう。

**#7119** (プッシュ回線・携帯電話・PHSから)  
つながらない場合は・・・  
**23区:03-3212-2323**  
**多摩地区:042-521-2323**

調査結果の詳しい内容は、東京暮らしWEB <http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/>

東京暮らしWEB

検索

でアクセスし、暮らしの安全(ヒヤリ・ハット調査)をご覧ください。

### インターネットアンケート調査概要

◆年末年始の生活等に潜む危険

調査対象／東京都に居住する20歳以上の男女(3,000人)

調査時期／平成24年3月

【お問合せ先】 東京都生活文化局消費生活部生活安全課  
電話 03-5388-3055(直通)



東京都

平成24年度  
登録(24)39

